

平成29年度 学校評価シート（青梅市立第一中学校）

＜学校経営方針の重点＞

- 1 学力向上 2 健全育成 3 組織運営・人材育成

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
1 学力向上	◆授業規律及び基礎・基本の徹底 ◆生涯にわたり、主体的・協働的に学び続ける力の育成	●「授業の指針」に基づく、力の付く、学びがいのある授業の実施 ●家庭学習の促進	①チャイム始業・チャイム終業及び礼に始まり礼に終わる授業の実施	A	◆教員は休み時間に生徒のフロアーにいるよう心がけ、チャイム前に教室に入り、チャイム始業・終業を行っている。 ◆生徒の委員会の取組も成果が現れている。	◆始業時間の厳守は授業規律の基礎である。今後も、生徒の委員会の活動の充実により、自覚を高める取組を進めていく。 ◆講師の教員にも徹底していく。	A	◆自分自身で時間の管理ができる力を身に付けることは、信頼される社会人になるために大変重要である。 ◆今後も、この取組を続けてほしい。	◆今後もチャイム始業・終業を徹底していく。 ◆生徒の自治活動も活性化し、自覚を高める。
			②放課後及び長期休業中の補習学習の充実（数学）	A	◆全学年で夏季休業中に補習授業を行った。 ◆主体的に取り組む生徒がいる反面、意欲が低く十分な成果につながらない生徒や参加を促しても拒否する生徒もいる。	◆真剣さに欠ける生徒や参加したくない生徒については、保護者との連携を強化する。 ◆学年・学校全体で定期考査前などに質問や補習の機会を設定する。	A	◆長期休業中の補習の成果が、普段の授業に生かされるところがよい。 ◆成果の数値化ができる透明な評価になるのではないかな。	◆補習授業を継続するとともに、保護者との連携を高め、家庭学習の一層の定着を目指す。
			③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	A	◆年3回の授業公開による校内研修や、各学期に行う管理職による授業観察により、「主体的・対話的な深い学び」に向けて授業改善が着実に進んでいる。	◆今後も引き続き校内研修や授業観察などを通して授業改善を進めていく。 ◆主体的な学習場面や対話的な学習場面を計画的に取り入れていく。	A	◆教師から生徒への一方的な授業ではなく、意見交換など双方向の学習形態がとられているのがよい。	◆主体的な学習場面や対話的な学習場面を計画的に取り入れていく。
			④考査の範囲を記したシラバス配布及び家庭学習ノート等点検・評価	A	◆家庭学習ノートにより、家庭学習の習慣が付いてきた。質の向上が課題である。 ◆シラバスの配布が遅れてしまったり、必要性を感じていない生徒がいたりした。	◆家庭学習の質を上げるために、家庭学習ノートのよい例を紹介したり、内容を指導したりして、生徒の意欲を喚起する必要がある。 ◆シラバスの内容及び活用法の改善を図る。	A	◆それぞれ考え方に違いがあるものの、各家庭の協力があって家庭学習は成り立つ。引き続き連携を重視してほしい。	◆保護者との連携を一層高め、家庭学習の質の向上を目指す。
			⑤朝読書の充実に資する「お勧め本」作成及びブックトークの実施	B	◆朝読書は定着し、8時20分に登校し、定刻の前から読み始める習慣が付いた。 ◆「お勧め本」の作成は行ったが、ブックトークの実施は不十分である。	◆「お勧め本」の取組を図書委員会の活動とするなど、生徒の意識をより一層高めるとともに、図書室に「お勧め本」コーナーを作るなどの工夫を行う。 ◆ブックトークの指導を国語科で行い、それを受けて各学年が計画的に実施する。	B	◆活字離れが社会的に問題視されている。その解決に向けた取組として必要である。 ◆この取組が、家庭での読書習慣の定着や読解力の向上につながるよう、継続実施を望む。	◆今後も朝読書を徹底し、読書に興味をもたせる工夫を行う。 ◆ブックトークについては取組の継続を含め、再検討する。
2 健全育成	◆社会において自立的に生きる力の育成 ◆いじめや不登校等への問題の対応	●よりよい社会人になるための望ましい習慣の形成 ●教職員と生徒との信頼関係の強化及び相談体制の充実	①一小及び四小との連携による9年間を見通した習慣の形成	A	◆「3ない運動」や「望ましい習慣の形成」について、小・中での共通認識ができつつある。 ◆小・中一貫の日を通し、より望ましい連携の在り方についての話し合いができていく。 ◆種々の連携を日々の実践として根付かせていくことが課題である。	◆「望ましい習慣の形成」を共通認識としながら、9年間を見通した習慣づくりを小学校と連携して進めていく。 ◆小・中一貫の日などの話し合いの中で、実践していることを互いに発表し合う場を設ける。	A	◆望ましい生活習慣は、一朝一夕に身に付くものではない。小学校一年から中学校三年まで一貫した取組は大変有効である。	◆小中一貫の日を活用して、「望ましい習慣の形成」の取組を充実させていく。
			②教職員による生徒への「挨拶プラス一言運動」の実施	B	◆プラス一言を日常的に行っている教員が増えてきた。	◆生徒のよい点や進歩の状況、関心事などを記した「プラスカード」の活用を促していく。 ◆プラスカードの活用を進める。	A	◆「プラスカード」を活用し、褒めて育てるのは、生徒との良好な人間関係づくりに有効である。	◆教員の取組を推進するとともに、生徒会活動をより活性化させていく。
			③全教職員による「いつでも誰にでも相談週間」の実施	B	◆「いつでも誰にでも相談週間」の期間の周知が十分ではなかった。日常的に学年・学級の枠を超えて生徒の悩みを受け止める体制ができつつある。	◆今後も相談週間に限らず、いつでも誰にでも相談してよいことを生徒に伝え、悩みの解消に向けた教育相談を充実させていく。	A	◆日常的に、担任に限らず、様々な教員が生徒に声をかけていることが、本音で相談に来る生徒の増加につながる。	◆今後も、この取組を継続し、生徒に寄り添う指導を推進する。
			④休み始めの迅速・組織的な対応等による不登校問題への対応	A	◆管理職・特別支援部・生活指導部・学年・担任が迅速に連携・協議して家庭に働きかけ、SCや外部機関とも日常的に連携している。 ◆多くの教員が、不登校気味の生徒に関わることができている。	◆今後も、不登校傾向の生徒についての取組を継続していく。	A	◆欠席の初期段階からの家庭訪問やSCの活用、教師から生徒への声掛けなどは、不登校やいじめの防止に有効であろう。 ◆全ての生徒が教師に相談しやすい雰囲気のある学校を目指してほしい。	◆特別支援部とSCの連携を強め、いじめ・不登校防止を進める。SCの専門性を教員も学び、指導力向上を目指す。
3 組織運営・人材育成	◆主体的に課題を解決し、着実に成果を上げ続ける組織・人づくり	●経営計画の実施に向けた協働体制の確立 ●経営改善に資する学校評価 ●チームとしての対応力の強化	①「重点項目整理表」及び「課題別カード」を活用した目標への意思統合及びコミュニケーションの活性化	B	◆分かりやすいという意見がある一方で、有効活用ができていないという意見もある。 ◆各担当分掌内で、議論され計画的に取り組んでいる。	◆「重点項目整理表」や「課題別カード」の内容は、日常的に取り組んでいる内容である。取組ごとに、「重点項目整理表」に立ち戻るなど、目的意識を高めながら取り組んでいく。	A	◆「重点項目整理表」があると、何をやるかとしているかが明確で分かりやすい。 ◆異動してきた教員にとっても意思統合がしやすい。	◆各取組と「重点項目整理表」の関係を全教員が意識できるように取り組んでいく。
			②学校経営計画に即した自己評価及び対話を重視した学校関係者評価の実施	A	◆学校経営計画に即した評価項目を設置したことが、効率的な経営改善につながった。 ◆対話形式の協議会を企画・運営することにより、学校関係者の学校への理解が一層深まった。	◆今後もこの方式を生かして学校改善を進めていく。 ◆対話を重視することで、学校教育活動の趣旨や教員の思いや願いを伝えるとともに、学校への多様な意見を聴取し、改善につなげていく。	A	◆本協議会において、「重点項目整理表」に沿って意見交換を行う形式はととてもよい。 ◆学校の情報も分かりやすく、意見も表明しやすい。	◆今後も、この形式を継続していく。 ◆更に、意見を出しやすくし、評価が学校改善につながるよう工夫する。
			③目標共有、役割分担、調整・統合の各機能を高める幹部会及び運営委員会の実施	A	◆幹部会及び運営委員会の「調整・統合」機能を高めることで、組織力が高まっている。 ◆運営委員会の内容は、学年内で回覧し、情報共有することができた。 ◆学年会を定期的に設定できると、組織力がより高まる。	◆学年会の日程を設定する。	A	◆幹部会や運営委員会の実施は負担もあると思うが、よく機能しているので、ぜひ続けてほしい。 ◆学校の小規模化が進みつつある。校内業務の効率化・簡素化も検討していく必要がある。	◆今後も幹部会及び運営委員会を軸に、目標共有、役割分担、調整・統合を行っていく。 ◆定例の学年会の日程を設定する方向で検討する。